



# 郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2026年2月1日

2月号

校長 安倍 武雄

## 学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

### 突き放して鍛える ほめて伸ばす

「獅子はわが子を千尋の谷に突き落とす」という言葉があります。「獅子は生まれたばかりの子を深い谷に落とし、這い上がってきた生命力のある子どものみを育てる」という中国の言い伝えから、本当に深い愛情をもつ相手にわざと試練を与えて成長させるべきだという考え方を意味する言葉です。私たち世代の子育ては、根性論で全てが解決すると思われていた世の中でしたから、この理論もまかり通っていたのかもしれませんが。実際、漢字を100回書けとか、何なら今でいう体罰も当たり前がありました。「あなたのため」という言葉のもとに。

最近ではこんな話は通用しません。試練という崖を、指導者（親）は見守るだけで、自力で這いあがってくるのを待つのではなく、指導者（親）側が、崖を細かく削り、くだき、階段をつけ（スモールステップといいます）子どもが一步上がるたびにほめて育てることが推奨されています。でも、この「ほめる」ということは本当に難しいことだと思いませんか？

間違っ**て**はいけないのは、ほめることはおだてることではないということ。子どもが一番嬉しいのは、「自分がやりたいと思ってやったことを認めてもらえること」です。逆に言えば、やりたくもないものを無理やりやらせて「できたね。えらいね。」と言われても、ほめたことが「報酬」となり、ほめなければやらないという逆説的な結果を生んでしまうことにもなりかねません。

また、どこがよかったのか具体的にほめることが大切です。「すごい・えらい」となんだかよくわからないアバウトなほめ方より、自分は「どこがどんなふう良いと思ったのか、あなたが〇〇を〇〇するくらい頑張ったからできるようになったと思う」など、具体的にほめることです。

NGは2つ。「結果だけをほめる」ことと「他人と比べること」です。「100点でよかった」「一番はすごい」など結果だけを求めるなら、99点や2位は「ダメ」ということになってしまいます。そうではなく、そういう結果になるために「がんばったこと」を認めてあげるのです。

同じように、他人と比べることは、無駄な競争心をあおることになります。自分の成功のために誰かの失敗を願ったり、どうせ勝てっこないというあきらめの気持ちを育ててしまったりする可能性もあります。「〇〇ちゃんより早くできたね」のように、他の子と比べる言い方は避けましょう。どうしても比べるなら、過去の自分との比較ならOKです。「前はできなかったのに…」となれば、自分の成長に自信がもてますね。

上手にほめることで、子どもの「次はどう工夫しようかな」という自主性や「自分はなかなかイケてる」という自己肯定感が養われます。自分自身の存在価値を認識して、自分を大切に思うことができるのです。それは同時に、他人に対しても、思いやりをもって接することができるようになることです。

お話し会ではそんなことも話題にしたいと思います。どうぞご参加ください。

### 「校長とお話し会2」

右のQRコードよりどうぞお気軽にお申し込みください。今回は、「子どもたちの自立に向けて」をテーマにお話し会を行います。

お申込みQRコード↑

日時 2月10日（火）10:00～11:30

場所 会議室

持ち物 うわばき、のみもの、筆記用具

